

科目名 Course Name	経済学 Economics				ナンバリング No.	A1-019	
年次	1 年	期別	前期	単位数	2	授業形態	講義
担当者氏名	長江 庸泰						
連絡方法	C-Learning にて対応、オフィスアワー:本館2F(研究室 4)月～木曜 9:00～16:00(授業・会議時間を除く)						
必修／選択	選択						
関連 DP	DP2, DP3, DP5						
授業の概要と到達目標	実務で役立つ、マクロ&ミクロ経済学・金融・財政・国際経済の“楽習”を通して、世界の出来事をより深く洞察できる能力と同時に、人生を生き抜く“ファイナンス力”を身につけた人材を育成する。 ①「国際経済から見た国家(a.日本《プラザ合意、バブル経済、不毛の 30 年》、b.アメリカ《ITバブル、雇用と財政、リーマン・クラッシュ》、c.アジア《通貨危機》、d.100年に一度の経済危機)」を習得し、第三者に説明できるようにする。 ②「経済活動」を習得し、第三者に説明できるようにする。 ③「ミクロ経済学」を習得し、第三者に説明できるようにする。 ④「マクロ経済学」を習得し、第三者に説明できるようにする。 ⑤「金融・財政と国際経済」を習得し、第三者に説明できるようにする。						
授業の方法	本授業は、講義、マルチメディア授業、デジタルテキスト、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク等を活用しながら、経済学に精通した人材育成を目指すものである。						
学習成果	L01						
	L02						
	L03	①「国際経済から見た国家(a.日本《プラザ合意、バブル経済、不毛の 30 年》、b.アメリカ《ITバブル、雇用と財政、リーマン・クラッシュ》、c.アジア《通貨危機》、d.100年に一度の経済危機)」を習得し、第三者に説明できる。 ②「経済活動」を習得し、第三者に説明できる。 ③「ミクロ経済学」を習得し、第三者に説明できる。 ④「マクロ経済学」を習得し、第三者に説明できる。 ⑤「金融・財政と国際経済」を習得し、第三者に説明できる。					
	L04						
課題に対するフィードバック	小テスト・期末試験等の解答を示し、結果は、C-Learning 等で個別にフィードバックする。						
教科書／参考図書	長江庸泰作成の“デジタルテキスト[経済学 2025 年度版]”を活用する。						
履修上の留意点やルール等	事前・事後学習各回 180 分、本学の教育理念(想う人、考える人、行う人を創る)を体現する自主創造の教えを基に、「1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜きながら、3)自分で調べ・学ぶ、課題解決型のアクティブラーニング」を常に心掛けること。						
担当教員の実務経験	●実務経験(職種:会社役員 職歴:45 年)、実務経験を経済学活動の実践面と学習・説明等で活用する。						

成績評価の方法と基準							
評価の領域	評価基準	学習成果の割合					
		L01	L02	L03	L04		
授業参加態度	以下の 3 点から評価する:①ノートに関し、創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。S 評価の基準:上記参加態度を全て満たすもの。			10			
レポート／作品	S のレポートの評価:①創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に展開している、③課題の本質と学習成果が十分にまとめられている。レポート最新課題は、月 1 回計 3 回提出予定(締切は各月末)。			30			

発表	Sのレポート発表評価:①創意工夫した発表となっている、②自分の意見をまとめながら論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。			20	
小テスト	成績評価:S(傑出した内容)=90-100、A(平均を上回る内容)=80-89、B(平均的内容)=70-79、C(平均を下回る内容)=60-69、D(左記以外の内容)=0-59			20	
試験	成績評価:S(傑出した内容)=90-100、A(平均を上回る内容)=80-89、B(平均的内容)=70-79、C(平均を下回る内容)=60-69、D(左記以外の内容)=0-59			20	
その他	上記評価基準に基づき成績評価:S(傑出した内容)=90-100、A(平均を上回る内容)=80-89、B(平均的内容)=70-79、C(平均を下回る内容)=60-69、D(左記以外の内容)=0-59				
合 計				100	

回数		授業計画
1	授業内容	授業ガイダンス:本授業の進め方と学び方/レポート課題説明と出題の解説、シラバスを読んでおき、各授業に関する質問事項等を考えておくこと。
	事前・事後学習	事前学習(上記質問事項等を準備しておくこと)・事後学習(ノートを整理しながら、自分で調べ・学ぶ姿勢を身につけること)。
2	授業内容	国際経済から見た国家(①日本《プラザ合意、バブル経済、不毛の30年》、②アメリカ《ITバブル、雇用と財政、リーマン・クラッシュ》、③アジア《通貨危機》、④100年に一度の経済危機)。
	事前・事後学習	上記デジタルテキストの当該20頁での質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
3	授業内容	国際経済から見た国家(①EUの誕生、②中国、③BRICs)。
	事前・事後学習	上記デジタルテキストの当該20頁での質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
4	授業内容	経済活動(①経済学とは、②経済学に学ぶ自己責任の時代、③経済学の領域)。
	事前・事後学習	上記デジタルテキストの当該20頁での質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
5	授業内容	経済活動(①歴史に学ぶ経済学、②経済学の概念、③経済システム)。
	事前・事後学習	上記デジタルテキストの当該20頁での質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
6	授業内容	ミクロ経済学(①需要曲線、需要の変化、需要の価格弾力性、②供給曲線、供給の変化、供給の価格弾力性)/プレゼンテーション&ディスカッション①。
	事前・事後学習	上記デジタルテキストの当該20頁での質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
7	授業内容	ミクロ経済学(①生産理論、②経済モデル、③市場構造、④企業戦略、⑤逆選択)/プレゼンテーション&ディスカッション②。
	事前・事後学習	上記デジタルテキストの当該20頁での質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
8	授業内容	マクロ経済学(①GDP、付加価値、三面等価、②限界消費性向、投資、③輸出入)/プレゼンテーション&ディスカッション③。
	事前・事後学習	上記デジタルテキストの当該20頁での質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
9	授業内容	マクロ経済学(①政府支出、名目・実績 GDP、②経済成長率、インフレーション、デフレーション、スタグフレーション、③失業)/プレゼンテーション&ディスカッション④。
	事前・事後学習	上記デジタルテキストの当該20頁での質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
10	授業内容	金融・財政(①金融とは、中央銀行、金融政策、金融ビックバン、②M&A、債券、③ヘッジファンド、信用取引、証券化)/プレゼンテーション&ディスカッション⑤。
	事前・事後学習	上記デジタルテキストの当該20頁での質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
11	授業内容	金融・財政(①財政とは、財政政策、②乗数効果、③年金)/プレゼンテーション&ディスカッション⑥。
	事前・事後学習	上記デジタルテキストの当該20頁での質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
12	授業内容	国際経済(①外国為替市場、②変動為替相場)/プレゼンテーション&ディスカッション⑦。
	事前・事後学習	上記デジタルテキストの当該20頁での質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
13	授業内容	国際経済(①一物一価、②購買力平価)/プレゼンテーション&ディスカッション⑧。
	事前・事後学習	上記デジタルテキストの当該20頁での質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
14	授業内容	国際経済(①為替差損・差益、②テロリズムと経済)/国際経済(①比較優位、②産業の空洞化、③国際収支)。
	事前・事後学習	上記デジタルテキストの当該20頁での質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
15	授業内容	国際経済の時事問題。
	事前・事後学習	上記デジタルテキストの当該20頁での質問事項等の準備とノートの事後整理学習。